

地球科学輻合ゼミナール

(2009年度 前期 第2回)のご案内

「同位体地球化学の進展開」

平田 岳史

理学研究科 地質学鉱物学教室 相関地球化学分科

地球化学では、試料の化学組成・同位体組成データに基づき、試料が形成された年代や当時の物理化学的環境、さらには試料が経てきた地質学的イベントなど様々な情報を引き出します。ここで得られた情報は地質学イベントの特異性あるいは普遍性を議論し、46億年にわたる地球や太陽系の進化を俯瞰するための基盤的知見となります。1990年代に始まる分析技術の急速な進歩により、試料から得られる元素情報の質と量は飛躍的に向上しました。そして 研究対象や手法が細分化・高精度化された現在、私たち地球化学者は自分たちの研究推進に特化した分析手法の開発を独自に進めています。この特化した分析技術を徹底して進めることが、全く新しい地球化学的制約条件を得る最も直接的かつ強力なアプローチです。現在、私たちは以下の3つの研究テーマに取り組んでいます。(1) 太陽系形成初期尾年代学、(2) 地球中心核を含めた地球内部での元素分配と物質循環、(3) 生体金属支援機能化学(メタロミクス)です。この3つのテーマに共通した研究基盤が超微量元素分析技術です。今回は、分野横断的要素の特に強い「地球中心核の地球化学」について現状と将来における研究動向を紹介したいと思います。

5月13日(水) 午後4:30~午後6:00

場所: 理学研究科6号館 201号室